【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成20年7月17日(2008.7.17)

【公表番号】特表2008-509722(P2008-509722A)
【公表日】平成20年4月3日(2008.4.3)
【年通号数】公開・登録公報2008-013
【出願番号】特願2007-525589(P2007-525589)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｌ　31/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｆ　 2/84　　(2006.01)
Ａ６１Ｌ　29/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｌ　31/00　　Ｐ
Ａ６１Ｍ　29/02
Ａ６１Ｌ　29/00　　Ｗ

【手続補正書】
【提出日】平成20年5月27日(2008.5.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１】
ステントを本質的に放射線不透過性とするのに十分な量のハロゲン原子を含む放射線不透過性の生体吸収性ステントであって、５０，０００～５００，０００ｐｓｉの弾性率を示す、放射線不透過性の生体吸収性ステント。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
本発明の好ましい実施形態によれば、放射線不透過性の、生体吸収性ステントが開示される。このステントは、ステントを本質的に放射線不透過性とするのに十分な量のハロゲン原子を含む生体吸収性ポリマーを含む。そして、前記放射線不透過性の生体吸収性ステントは、５０，０００～５００，０００ｐｓｉの弾性率を示す。ステントは更に、シート状のステント、網状のステント、自己拡張ステント、ワイヤー状のステント、可変のステント、並びにスライド及びロック式のステントからなる群から選択された構造を含みうる。他のバリエーションでは、ステントは拡張可能なバルーンであり、チューブ部材を形成するために配置される２以上の実質上変形しない部材を含み、前記変形しない部材は、チューブ部材を崩壊した直径から拡張した直径まで拡張させるために、スライド可能なようにまたは回転するように相互接続している。